

[1] 開祭

2022年12月4日、待降節第二主日の礼拝を始めます。

しばらく間をおいてから入祭唱を唱（とな）えます。

入祭唱 (イザヤ 30:19,30)

シオンに住む人よ、主は民を救いに来られる。栄光に満ちた主の声を聞くとき、あなたがたの心は喜びにあふれる。

主イエス・キリストよ、おいでください。弟子たちの中に立ち、復活のみ姿を現されたように、わたしたちのうちにもお臨みください。

懺悔と赦しの祈り

しばらく自らを省みた後で唱えます。

全能の神に告白します。わたしは、思い、ことば、行ない、怠りによってたびたび罪を犯しました。全能の神がわたしたちを憐れみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように。 † アーメン

あわれみの賛歌 ♪ (キリエ)

ひとりで礼拝しているときは、先唱だけを歌います。

先唱 キリエ・エレイソン

後唱 キリエ・エレイソン

先唱 クリステ・エレイソン

後唱 クリステ・エレイソン

先唱 キリエ・エレイソン

後唱 キリエ・エレイソン

栄光の賛歌 ♪ (グロリア)

いと高きところには神に栄光、地にはみ心にかなう人びとに平和がありますように。全能の父、天の王、主なる神よ、主を拝み、主に感謝し、主の栄光をほめたたえます。父のひとり子、主イエス・キリスト、世の罪を除く神の子羊、主なる神よ、わたしたちに憐れみをお与えください。

父の右に座しておられる主よ、わたしたちの祈りを受け入れてください。

イエス・キリストよ、主のみ聖、主のみ王、主のみ聖霊とともに、父なる神の栄光のうち、最も高くおられます アーメン

集会祈願

全世界を見守っておられる神よ、あなたはすべての人の回心をいつも望んでおられます。キリストの名のもとに集うわたしたちを聖霊で満たし支えてください。限りない愛を世界にもたらしてくださる救い主を、いつも新しい心で待ち続けることができますように。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に行き、支配しておられるみ子、わたしたちの✠主イエス・キリストによって。アーメン

[2] みことばの典礼

第一朗読 イザヤ書 11:1-10

最初に第一朗読 ○○記 ○章○節からといって読み始めます。本文の()は聖書の接続詞、代名詞を補うためのことばですので、音読します。本文の冒頭の数字○○:○○は文章番号ですので読みません。

(その日)エッサイの株からひとつの芽が萌えいでその根からひとつの若枝が育ちその上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊 思慮と勇気の霊 主を知り、畏れ敬う霊。彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず、耳にするところによって弁護することはない。弱い人のために正当な裁きを行い、この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち、唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。正義をその腰の帯とし、真実をその身に帯びる。狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ、その子らは共に伏し獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる。その日が来ればエッサイの根はすべての民の旗印として立てられ国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く。

朗読の終わりは次のように唱える。

第一朗読を終わります。

第二朗読 ローマの信徒への手紙 15:4-9

第二朗読 ○○○ ○章○節からといって読み始める。

(皆さん、)かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、心を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエス・キリストの神で

あり、父である方をたたえさせていただきますように。

だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。わたしは言う。キリストは神の真実を現すために、割礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約束を確証されるためであり、異邦人が神をその憐れみのゆえにたたえるようになるためです。

「そのため、わたしは異邦人の中であなたをたたえ、あなたの名をほめ歌おう」と書いてあるとおりです。

朗読の終わりは次のように唱える。

第二朗読を終わります。

福音朗読

マタイによる福音 3 章 1 節以下に記された主イエス・キリストの福音。

朗読者はここで十字をきる。利き腕の指を額・くちびる・左肩・右肩の順番におく。

†主に栄光。主に栄光がありますように。

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。

「荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」ヨハネは、らくだの毛衣（けごろも）を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授

けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

朗読の終わりは次のように唱える。

主に感謝。主に感謝します。

説教

説教は黙読でもかまいません。何人かで礼拝していれば、一人が音読します。

待降節第2主日 2016.12.4

差し迫った神の怒り

マタイ3章1-12節

1. イエスでも先駆者が必要だった？

洗礼者ヨハネは最後の預言者と伝えられています。イエスはある時、聖書はわたしを証しする書だといいました。ここでイエスがさす聖書とは旧約聖書です。このイエス発言に対してヨハネは新約聖書上でイエスを預言した、ともいえます。しかしイエスに必要だったのは預言者というより、同時代の信仰の先駆者だったのではないのでしょうか。当時のユダヤ教を改革を叫ぶ人はヨハネ以外にも多くいたかもしれません。荒野で修行していたのは洗礼者ヨハネだけではないでしょう。数多くの宗教改革者がいたとすれば、なぜヨハネが選ばれ新約聖書に名を残すことになったのでしょうか。

2. ヨハネはユニークだった。

ヨハネは聖書に洗礼者ヨハネ（バプテスマのヨハネ）と記されています。聖書には同じ名前の人物がでてくるので区別するためにあだ名をつけることもあります。彼のユニークな一面をあらわした名といえます。それは彼が「洗礼(バプテスマ)」といういままでのユダヤ教にはなかった新しい儀礼をもちいて宗教活動をしていた点です。

エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。(3:5-6)

きょうの聖書箇所が続いて13節以下にイエスがヨハネから洗礼を受けたことが記されます。イエスもまたヨハネから洗礼を受けたユダヤ人の一人でした。

3. 洗礼という形式。

イエスがこの世で成し遂げたことは「十字架と復活」に尽きます。それを成し遂げる

ためにイエスは地上の生涯を駆け抜けたといえます。金曜日に十字架につけられ、日曜日の朝に復活した。この三日間のためにイエスは人となり苦しみを受けてきました。

「十字架と復活」に焦点を当ててみると「イエスの洗礼」の意味が浮かび上がります。イエスはヨハネのユダヤ教改革運動の火を自分の活動のために必要としたのではないか。たとえば、導火線につける火としてヨハネの洗礼によるユダヤ教改革運動を使った、洗礼はそのための手段としてあったのではないだろうか。つまり、洗礼を受けることによってユダヤ教改革運動の同意者、賛成者であると公に表明するあかしになったということです。

わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。(3:11)

イエスは罪の赦しを病人、未亡人、貧しい人など多くの人に与えたことが聖書に記されています。しかし聖書の記述の中にイエスが洗礼を施したエピソードはひとつもありません。ヨハネはイエスは自分の水による洗礼ではない方法「聖霊と火」で洗礼をすると証言します。でもイエスは誰にも洗礼をしませんでした。「聖霊と火」の洗礼とはヨハネが証言しているだけで実際には行われません。洗礼は聖書によれば洗礼者ヨハネが始めたものです。この洗礼儀礼はイエスの昇天後、キリスト教入信儀礼として教会が採用したという歴史的な経緯があります。

4. さいごに。

ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。」(3:7)

終末の神の怒りは“免れることが不可能である”と、洗礼者ヨハネは説教しています。私たちはイエスの露払いでもある洗礼者ヨハネの説教を聞きながら、キリストの十字架こそがまさに神の怒りそのものであったことを知ります。

そしてキリスト教信仰は洗礼を受けた、受けていないという「かたち」のはなしではなく、イエスの十字架と復活を信じることだった、とあたためて気づくのです。

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。聖なる共同の公会、† 聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

共同祈願

キリストに従う心を新たに祈りましょう。

- ・愛をもってわたしたちを導いてくださるみ子キリストにいつも心に向け、信頼と希望のうちに生きることができるよう。
- ・すべての人が尊厳を守られ、喜びのうちに生きられるよう、一人ひとりが自分の役割に気づき、力を注いでいくことができますように。
- ・抑圧や苦難のうちにある人々を顧みてください。あなたのことばからなぐさめと忍耐の力を受け、希望のうちに歩めますように。
- ・（いまあなたに必要な祈りがあれば追加して祈りましょう）

恵み豊かな神よ、あなたはすべての人を顧み、救いの道へと招いておられます。わたしたちが日々、救い主キリストを力強く告げ知らせることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

[3] 感謝の典礼（にうつります）

- ・聖餐をおこなわない場合は以下を省略して[4]の「主の祈り」をおこなう。
- ・聖餐のパンとぶどう酒は、ここでテーブルのうえにおく。しばらく黙想する。

叙唱

黙読する。二人以上で礼拝している時は一人が音読する。

聖なる父、全能永遠の神よ、いつどこでも主・キリストによって賛美と感謝をささげ

ることは、まことに尊いたいせつな務めです。キリストは人間のみじめさを帯びてこの世に来られたとき、父の定められた愛の計画を実現し、わたしたちに永遠の救いの道をお開きになりました。栄光を帯びてふたたび来られるとき、いまわたしたちが信頼してひたすら待ち望んでいることは、すべてかなえられます。神の威光をあがめ、権能（けんのう）を敬うすべての天使とともに、わたしたちもあなたの栄光を終わりになくほめ歌います。

感謝の賛歌 ♪（サンクトゥス）

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神 主の栄光は天地に満つ い
と高きところにホサナ

ほめたたえよ 主のみ名によって こられる方を いと高きところにホサナ

奉献文

黙読する。二人以上で礼拝している時は一人が音読する。

天の父よ、救い主、み子イエス・キリストによってわたしたちの感謝・賛美をお受けください。わたしたちはみ子の模範にならい、そのみ定めに従ってこの式典を行います。どうかみ言葉と聖霊により、主の賜物であるこのパンとぶどう酒を祝し、聖として、わたしたちのために主イエス・キリストの（パンとぶどう酒に向い十字を切りながら唱える。）

† 尊い体と血にしてください。

主は渡される夜、パンを取り、感謝してこれを裂き、弟子たちに与えて仰せになりました。

「取って食べなさい。これはあなたがたのために与えるわたしの体です。わたしを記念するためにこのように行いなさい」

☆合掌して深く礼をする。すこし間をおく。

また食事ののち、杯を取り、感謝して彼らに与えて仰せになりました。

「皆、この杯から飲みなさい。これは罪の赦しを得させるようにと、あなたがたおよび多くの人のために流すわたしの新しい契約の血です。飲むたびにわたしの記念としてこのように行いなさい」

☆合掌して深く礼をする。すこし間をおいて歌う。

♪ キリストは死に /キリストはよみがえり /キリストは再び来られます

記念唱

以下は途中まで黙読し、黒文字の部分から音読する。二人以上で礼拝している時は一人がグレーの部分も音読する。

わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行い、ここであなたに奉仕できることを感謝し、いのちのパンと救いの杯をささげます。キリストの体と血にともにあずかるわたしたちが、聖霊によって一つに結ばれますように。世界に広がるあなたの教会を思い起こし、全教会を愛の完成に導いてください。

復活の希望をもって眠りについたわたしたちの兄弟とすべての死者を心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。なお、わたしたちをあわれみ、永遠のいのちにあずからせてください。み子イエス・キリストを通してあなたをほめたたえることができますように。

キリストによってキリストとともに † キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに。

(ここから音読)

わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところの一切を、はるかに超えてかなえてくださることができる方に、教会により、またキリスト・イエスによって、栄光が世々に限りなくありますように。アーメン

[4] 交わりの儀式

主の祈り

天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。みこころが天に行なわれるとおりに地にも行なわれますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

† 国と力と栄光は、限りなくあなたのものです。アーメン

聖餐を行わない時は以下を省略して【感謝祈願】のIIの祈りを唱え閉祭へと進む。

☆ここでパンを裂くときは次のようにいう。

わたしたちがパンを裂くとき キリストの体にあずかります。

パンが一つであるから わたしたちは多くいてもひとつの体です。

拝領唱 (バルク 5:5、4:36)

黙読する。二人以上で礼拝している時は一人が音読する。

エルサレムよ、立ち上がれ、神から来る喜びをみよ。

平和の賛歌 ♪ (アニユス・デイ)

世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください

世の罪を除く神の小羊よ、主の平安をお与えください

拝領

テーブルまたは祭壇に近づき、ひざまづく。

(沈黙のまま祈る) 「キリストの体が永遠のいのちの糧になりますように。」

十字を切り、**アーメン**と唱えてパンを頂く。

(沈黙のまま祈る) 「キリストの血が永遠のいのちの糧になりますように。」

十字を切り、**アーメン**と唱えてぶどう酒を頂く。

拝領後は着席し、沈黙のうちにしばらく祈る。

拝領祈願

主なる神よ。わたしたちに限りない恵みをあたえてくださることを感謝します。どうか、あなたのみ言葉の光でわたしたちの心を照らし導いてください。わたしたちがあなたを賛美し、み言葉に従い、ともに主の愛のうちに生活することができますように。わたしたちの主 † イエス・キリストによって。**アーメン**

[5] 閉祭

祝祷

父と子と聖霊なる全能の神の恵みが、常にわたしたちとともにありますように。

† **アーメン**

派遣の唱和

主の日の礼拝を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。

(間をおいて) 主の平和がありますように。 † **アーメン**

これで礼拝は終わりです。しばらく黙想したのち、礼拝のために準備したものを片付けます。